

元祖宗哲 中村八兵衛勇山と號す、一翁宗守の聲なり、始は蒔繪師なりしが、塗師に成しは、元來一翁宗守は塗師吉文字屋甚右衛門の養子となりたる人也、後に塗師を中村八兵衛へ讓て茶人となる、夫より宗哲塗師を業とす、依て宗守の出所といふなり、

二代宗哲 早世す、法名元哲、

三代宗哲 別號紹扑又漆桶又勇齋世に此人を彭祖ホウソ宗哲とて用ゆ、

四代宗哲 別號深齋シシ紹扑の養子、初は八郎兵衛と云、

五代宗哲 別號豹齋ヒョウといふ

六代宗哲 初代より代て今に至るまで通稱八兵衛

〔毛吹草三〕山城 藤重中繼

〔明和京羽二重三〕茶入蓋師

御幸町万壽寺上ル町 蓋師吉左衛門 寺町押小路下ル町 水口屋與兵衛

〔江戸總鹿子六諸職名匠諸商人〕茶入繕師

中町三惠○注所 南旗町中通 藤重當元

茶入蓋師

靈巖嶋長崎町 池嶋立作 京橋南二丁目 ふたや九右衛門 京橋北一丁目 ふたや長

左衛門 靈巖嶋長崎町 孫左衛門

〔和漢茶誌二〕注春 十六事之一 本國名之云茶入 茶譜註曰磁壺也、

本國以為名物者、凡百五十餘品、又曰、本國皆收于袋、袋口以紐結之、襜積古製以七樣、今用六樣也、紐色紫、紅絹、天鷲絨、韓茶、黃韓茶、右六品之外不用、紐結如蜻蛉形、袋帛或金襴、或純子之屬、皆以漢土所出、最舊者愈尙之、其色目甚多

茶入袋